

権力内部に大きな亀裂

権力内部に大きな亀裂 スケープゴートの胡氏 産経新聞

自由化のうねり抑えきれず

不気味な軍の沈黙

桑原 寿二氏（中国問題専門家）



中国の民主化を求めるエネルギーは、歴史的に考えても、ちょっときつかけでも噴き出す地下

に沈滞した火山脈のマグマのよう。抵抗はさまざま、ほとんど毎年

七九年からの対外開放政策で民主と自由を求める民衆の声は

少数のエリートという特殊な存在で、その学生がデモを行って

石原 亨一アジア経済研究所研究主任

結論的にいって、これまでの開放経済政策は変わらない。今回の

つは、もう経済の実態をたれも変えることができないという点だ。

胡氏は開放経済について大胆な発言をする人という印象が強い。

スケープゴートの胡氏

中嶋雄・東京外大教授（現代中国学専攻）の話 「開放政策を

さる胡書記を苦しく思っている。たまたま、今後は政治、経済すべ

の面を引締めが行われ、保守ではないだろうか」

たのか。もともと部氏は主震、薄一波、

の、常務委員はそのまま。胡氏の影響力が著しく低下したが、

わらう、第3ラウンドも

から。共産党内部の関係がどうなっていくかは、予想が難しい。

第3は、保守派と改革派の間に経済政策の大きな違いはないとい

胡氏は開放経済について大胆な発言をする人という印象が強い。

胡氏は開放経済について大胆な発言をする人という印象が強い。

辞任は保・革妥協の産物

小島朋之・京都産業大教授（現代中国論）の話 「暮れの二十五

日に中央軍事委員会が開かれた。これが七八年の三中全会以

の間で激しいせめぎ合いが続き、胡氏が公の場に姿をみせなくな

今回の人事は妥協の産物だろう。胡氏は総書記を退いたもの

の低下だ。力のバランスが崩れ、保守派寄りになった部氏の手

とらう。このおとぎ話、第三ラウンド、があるのではないかと

ギョ論ではなく、派閥の強弱を争う。利益論の世界とみるべきだ

政策上の差はない。

の接触を規制したが、あつらいのことは起るかもしれない。

の接触を規制したが、あつらいのことは起るかもしれない。

か。胡耀邦氏に目をかけてきた部

邦総書記が部小平氏に中央軍事委

なぜ、胡氏は辞任に追い込まれ

は弱まった。第三には、胡氏の手

とらう。このおとぎ話、第三ラ

ギョ論ではなく、派閥の強弱を争

政策上の差はない。

の接触を規制したが、あつらいの

の接触を規制したが、あつらいの

の接触を規制したが、あつらいの

鄧一胡体制の歩み

- 1977年 3月 党中央工作会議で鄧小平氏の3回目の復活が決定
- 8月 党第11期全国代表会議（11回党大会）で鄧氏を副主席、政治局常務委員などに選出。同大会で胡耀邦氏を党中央委員に選出
- 12月 胡耀邦氏が党中央組織部長に就任し、文化大革命期に打倒された幹部の復活と名誉回復を進める
- 1978年 3月 第5回全国人民代表大会で、鄧小平氏が第1副総理に就任
- 5月 胡耀邦氏が全国的な「真理検証」論争を組織し毛沢東の絶対的な権威を打破
- 11月 北京市西単の「民主の壁」に民主化を要求する壁新聞が張り出され、「北京の春」運動始まる
- 12月 党第11期3中総会で、全党の活動の重点を思想解放、対外開放など近代化建設に移すことを決議。あわせて「天安門事件」（76年4月）を「反革命事件」から「偉大な大衆運動」へ名誉回復。胡耀邦氏が同総会で党中央政治局員に昇格
- 1979年 1月 胡耀邦氏が党中央宣伝部長に就任し、三中総会路線の宣伝の強化をはかる
- 3月 鄧小平氏が中央の理論工作会議で、「四つの基本原則」を提唱し、思想解放に一定の枠をはめる
- 7月 党中央と國務院が広東、福建両省に4経済特区を設立することを決定
- 9月 葉劍英全人代常務委員長が建国30周年記念祝賀大会で文革の行き過ぎや過ちを認める演説を行い、実質的に毛沢東と党中央の無謬性を否定
- 1980年 2月 胡耀邦氏、趙紫陽氏が第11期第5回総会で政治局常務委員に昇任。胡耀邦氏は新設の党中央書記局総書記に就任。劉少奇元国家主席らの名誉回復決定
- 9月 趙紫陽氏が第5期全人代第3回会議で華國鋒氏に代わり國務院総理（首相）に就任
- 11月 いわゆる「四人組裁判」で、江青、張春橋が死刑、執行猶予二年の判決を受けた
- 1981年 6月 胡耀邦氏が党第11期六中総会で華國鋒氏に代わり党主席に選出され、党内序列ナンバーワンとなる。華氏はヒラの中央委員に格下げされ、文革派がほぼ一掃される。六中総会で毛沢東の評価を「功績第一、誤り第二」とする「歴史決議」を採択、鄧小平氏が党軍事委主席に就任
- 1982年 9月 第12回党大会で胡耀邦氏が党総書記に就任。中央委員候補348人のうち6割以上が新人で党の若返りが進み、鄧小平体制が固まった新しい党規約を採択
- 12月 第5期全人代第5回会議で新憲法を公布、同憲法で人民公社の解体が決定される
- 1983年 6月 鄧小平氏が第6回全人代第1回会議で新設の國家軍事委主席に選出
- 10月 「精神汚染排除」キャンペーンが発生（～84初めに鎮静化）党中央委員第2回総会で「整党について」の決定。胡耀邦氏を主任とする中央整党指導委員会を設け
- 1984年 5月 第6期全人代第2回会議で趙紫陽首相が体制改革と対外開放の突進などを強調した「政府活動報告」を承認
- 10月 党第12期3中総会で「経済体制改革に関する決定」が採択、主に都市の経済体制改革についての重要決定がなされた
- 1985年 4月 第6期全人代第3回会議で趙紫陽首相が「当面の経済情勢と経済体制改革」を報告、経済体制改革と開放政策をさらに推進することを確認
- 6月 人民公社が完全に解体し9万2千以上の郷・鎮人民政府になる
- 7月 鄧力群氏が党中央宣伝部長を解任される
- 9月 党全国代表会議で政治局員に胡啓立氏ら「第三グループ」の改革派の若手幹部が多数起用される。その半面、保守派の胡喬木氏が政治局員に鄧力群氏が中央委員に居残る。軍関係の長老、葉劍英氏ら7人が引退
- 1986年 5月 第2次「百花齊放、百家争鳴」始まる。党第12期6中総会で「精神文明決議」採択される
- 12月 民主化要求学生デモが全国各地で発生
- 1987年 1-14 鄧小平氏が胡耀邦氏に対し、「辞職勧告」を含む3回の激しい批判をしたと伝えられる
- 1-16 党政治局拡大会議を開き、胡総書記の辞表を受理

1915年湖南省瀏陽の貧農家庭出身。30年共産主義青年団に参加し、33年共産党入党、34年から長征に従軍。37年延安で抗日軍政大学に入学、抗日戦争では、第一八集團軍総政治部組織部長など軍の政治畑を歩んだ。国共内戦では、49年の太原攻めや50年の四川解放に参加。

胡耀邦氏の略歴